

令和8年度 第1回大阪府河川整備審議会 議事要旨

日 時 : 令和8年7月17日(金) 10:00~11:20

場 所 : 西大阪治水事務所 会議室およびWeb会議

出席者 : (委員) 相子委員、青山委員、荒木委員、入江委員、大久保委員、大藪委員、岡井委員、川池委員、濱委員、堀委員 計10名

内 容

1. 淀川水系神崎川の河川整備の事業評価について
 - ・淀川水系神崎川の河川整備の事業評価について、対応方針等の説明を行った。
2. 気候変動を踏まえた今後の高潮対策の進め方について
 - ・今後の審議内容について説明を行った。
 - ・今後の審議の進め方については、高潮専門部会で審議の上、河川整備審議会に報告を行うこととした。
3. 高潮専門部会委員の選出について
 - ・高潮専門部会の委員として、川池会長は京都大学防災研究所の森教授を部会長、入江委員、川池委員、堀委員を部会委員に指名した。

概 要 : [以下、○委員 ●事務局]

1. 淀川水系神崎川の河川整備の事業評価について
 - 事業費増額の要因は、物価・人件費上昇によるものとの説明であったが、事業内容に起因する増額要因はあるのか。
 - 河床掘削時にダイオキシン類が確認された場合の処分費や、封じ込めのための覆砂対策等が考えられるが、これらについては既に事業費に見込んでいます。
 - 当該地域は人口や資産が集中しており、B/Cは8.0と高いことから、事業継続は妥当と考えられる。
 - 生物調査について、魚類等の調査は定期的実施しているのか。また、生息数に特徴的な変化はみられるのか。
 - 近年、大阪府として神崎川における調査は実施しておらず、大阪市や民間団体等から提供を受けた調査結果を活用している。また、生息数についても把握可能なデータは取得しているが、特徴的な変化の確認はできていない。
 - 今後の魚類等の生息状況把握に当たっては、環境DNAの分析など新たな調査手法の活用も検討いただきたい。
 - 神崎川の未整備区間の一部では兵庫県側に位置する区間もあるが、兵庫県との連携はどのように行っているのか。
 - 神崎川については、右岸側が兵庫県の区間は兵庫県が掘削を行っており、両方で計画を合わせ調整しながら整備を進めている。
 - 便益の算定については、事業完了後に時間雨量65mm程度の降雨(1/40確率規模)が発生した場合でも、床上浸水被害が全て解消されることを前提としているのか。
 - その前提で便益を算定している。
2. 気候変動を踏まえた今後の高潮対策の進め方について
 - 河川の洪水の計画検討においては、河口部の潮位が計画高水位の設定に影響するものと理解しているが、本検討では気候変動を踏まえた洪水対策の検討で用いる潮位についても審議するのか。
 - 気候変動を踏まえた洪水対策の検討については、今後の審議を踏まえて設定する河口部の朔望平均満潮位を出発水位として用いることで考えている。

○高潮対策とあるが、高波や波の打上げも含めて検討を行うのか。

●そのとおりである。

○港湾部局も対策について議論されていることから、十分に連携しながら検討していただきたい。
また、2℃上昇シナリオだけでなく、オーバーシュートシナリオ等の最新知見を踏まえながら検討を進めていただきたい。

●大阪港湾局とはしっかり連携を取りながら、また国の動向などを注視し、最新の知見を踏まえながら検討を進めていく。